

第21回グリーン購入大賞 審査結果発表

2020年11月25日

グリーン購入ネットワーク（事務局：東京都千代田区 会長：梅田靖）では、「持続可能な調達」を通じて、グリーン市場の拡大に貢献した取り組みや SDGs の目標達成に寄与する取り組みを表彰する「第21回グリーン購入大賞」の受賞団体を以下のとおり決定いたしました。

なお、表彰式は12月11日（金）10時より、JPタワー ホール&カンファレンスにて開催いたします。

大賞・環境大臣賞	法政大学 川久保俊研究室
大賞・経済産業大臣賞	昭和電工株式会社
大賞・農林水産大臣賞	株式会社クラダシ

■第21回受賞団体一覧

賞	受賞団体（応募部門）	タイトル
大賞 環境大臣賞	法政大学 川久保俊研究室 （行政・民間団体部門）	自治体の SDGs に関する取組/成功事例を検索、発信、共有するローカル SDGs プラットフォームの開発
大賞 経済産業大臣賞	昭和電工株式会社 （プラスチック資源循環特別部門）	使用済みプラスチックのケミカルリサイクルによる低炭素な化学品原料化・資源循環事業
大賞 農林水産大臣賞	株式会社クラダシ （中小企業部門）	日本初の社会貢献型フードシェアリングプラットフォーム「KURADASHI」～もったいないを価値へ～
大賞	株式会社東急ホテルズ 川崎キング スカイフロント東急 REI ホテル （大企業部門）	再生可能エネルギー100%！ 日本初の「CO2 フリー電力ホテル」
大賞	小川珈琲株式会社 （中小企業部門）	一杯のコーヒーからできること【京都小川珈琲 SDGs 宣言】
大賞	横浜市 （行政・民間団体部門）	横浜市グリーン購入推進 ～e ラーニング研修等を通じた人材育成について～
大賞	日本コカ・コーラ株式会社 （プラスチック資源循環特別部門）	World Without Waste（廃棄物ゼロ社会の実現を目指す） 100%リサイクルペット素材で作られた「い・ろ・は・す」製品
優秀賞	大東建託株式会社 （大企業部門）	脱炭素経営の実現に向けた大東建託の 再生可能エネルギー導入・普及・拡大への取り組み
優秀賞	デジタルグリッド株式会社 （大企業部門）	「誰でも」・「自由」に再エネ電力取引ができる 「デジタルグリッドプラットフォーム」
優秀賞	有限会社生活アートクラブ （中小企業部門）	環境配慮型印刷用紙「木になる紙」と「竹紙」の 持続的活用と発展的展開で、SDGs の一翼を担う！
優秀賞	町田市 （行政・民間団体部門）	誰一人取り残さないグリーン購入に向けて ～町田市役所の環境マネジメント～
優秀賞	宇陀化成工業株式会社 （プラスチック資源循環特別部門）	リサイクル原料 100%に拘り、地球環境に配慮し社会に 貢献する宇陀化成工業のものづくりが誇りです。
優秀賞	FYS 株式会社 （プラスチック資源循環特別部門）	「広域認定制度」に則り、大手リテラーと取り組み 流通ハンガーを再利用することにより廃プラ削減と 循環型社会の一端を担う。APRES（アプレス）活動の普及

グリーン購入推進自治体特別賞

新潟市 大阪市

■グリーン購入大賞

グリーン購入大賞は、環境に配慮した製品やサービスを環境負荷低減に努める事業者から優先的に購入する「グリーン購入」の普及・拡大に取り組む団体を表彰する制度として、1998年に創設しました。

第19回（2018年度）より、SDGs（持続可能な開発目標）の目標の1つに位置付けられた目標12「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」を踏まえ、グリーン購入から持続可能な調達に審査、表彰する領域を広げ、従来のグリーン市場の拡大に貢献した取り組みに加えて、持続可能な調達（消費と生産）を通じてSDGsの目標達成に寄与する取り組みについても募集、審査を行いました。

また、第21回では社会的課題であるプラスチック問題の解決に寄与する取り組みに着目し、「プラスチック資源循環特別部門」を設けました。

■応募部門

大企業部門、中小企業部門、行政・民間団体部門、プラスチック資源循環特別部門

■審査方法・審査結果について

5月13日～7月31日に募集を行い、全国より応募のあった取り組みについて、1次審査（8月27日）、本審査（9月27日）を経て受賞団体を選定いたしました。

グリーン購入大賞「大賞」は大企業部門：株式会社東急ホテルズ 川崎キングスカイフロント東急 REI ホテル、中小企業部門：小川珈琲株式会社、株式会社クラダシ、行政・民間団体部門：法政大学 川久保俊研究室、横浜市、プラスチック資源循環特別部門：昭和電工株式会社、日本コカ・コーラ株式会社の7団体、「優秀賞」は大企業部門：大東建託株式会社、デジタルグリッド株式会社、中小企業部門：有限会社生活アートクラブ、行政・民間団体部門：町田市、プラスチック資源循環特別部門：宇陀化成工業株式会社、FYS株式会社の6団体に決定致しました。

「環境大臣賞」は法政大学 川久保俊研究室、「経済産業大臣賞」は昭和電工株式会社、「農林水産大臣賞」は株式会社クラダシへの授与が決まりました。

■審査総評：審査委員長 梅田 靖 GPN 会長（東京大学大学院教授）

SDGs が採択され、パリ協定が発効されてから5年。昨年は海洋プラスチックごみ問題や廃プラスチックの輸出規制など、プラスチックの資源循環問題が大きくクローズアップされ、私たちの消費と企業のものづくりのあり方が問い直されるきっかけとなりました。異常気象や水産資源の減少、違法労働等、さまざまな課題に直面する中、私たちはそれらを解決しようとするベストプラクティスから学び、知見を水平展開していく必要があります。

今年度のグリーン購入大賞では、SDGs の目標達成に寄与する消費と生産の取り組みに加え、社会的重要性が高まっている課題であるプラスチック問題の解決に寄与する取り組みを表彰するために「プラスチック資源循環特別部門」を設置しました。

プラスチック資源循環特別部門では、これまでの慣例を打破し、再生資源の調達やリサイクル製品の生産と普及など、パートナーシップで取り組んだ応募が多くありました。また、行政・民間団体部門や大企業、中小企業部門では、グリーン購入や持続可能性に配慮した調達をしやすくする「仕組み」の構築と「教育」がキーワードだったのではないのでしょうか。今年度の受賞事例から得られるエッセンスにより、次なる優秀事例が生み出されることを願っています。

■本審査委員（敬称略）

委員長：	梅田 靖	東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター 教授、GPN 会長
委員：	伊坪 徳宏	東京都市大学 環境学部 教授、GPN 代表理事
	奥 真美	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授、GPN アドバイザー
	石川 雅紀	神戸大学 名誉教授、GPN アドバイザー
	蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授、GPN アドバイザー
	西村 治彦	環境省 大臣官房環境経済課長
	若月 一泰	経済産業省 産業技術環境局環境政策課長
	久保 牧衣子	農林水産省 大臣官房政策課環境政策室長
	長谷川 雅巳	日本経済団体連合会 環境エネルギー本部長
	伊藤 剛寛	読売新聞東京本社 編集委員
	渡辺 暖	毎日新聞社 科学環境部 部長
	田中 太郎	日経 BP 日経 ESG 編集長

■表彰式について

【表彰式】2020年12月11日（金）10:00～11:30

会場：JPタワー ホール&カンファレンス ホール1

（〒100-7004 東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE 4階）

※表彰式は、受賞団体、メディア関係者のみで開催いたします。

※当日の取材をご希望される場合は、GPN事務局（担当：竹内）までご連絡ください。

■主催：グリーン購入ネットワーク（GPN）

■後援：環境省、経済産業省、農林水産省、日本経済団体連合会、読売新聞社、毎日新聞社、日刊工業新聞社、日経BP、東洋経済新報社、株式会社共同通信社、環境新聞社

■グリーン購入ネットワーク（GPN）

グリーン購入を促進するために、1996年2月に設立された、企業・行政・民間団体等による緩やかなネットワーク組織。地方公共団体や企業等の組織購入者へグリーン購入の普及啓発を行うと共に、商品分野ごとの購入ガイドラインの策定、約14,000点の商品の環境情報を掲載したデータベース（エコ商品ねっと）の運営等を行っています。

2018年度からは、パリ協定やSDGs等の世界的動向をふまえ、活動の領域をグリーン購入から持続可能な調達に拡大し、購入原則の改定や取り組み度を測るための仕組みを構築し、事業を推進しています。

2020年6月時点の会員団体数は1,314団体（企業1,084、行政106、民間団体124）です。

ホームページ：<https://www.gpn.jp/>

「大賞・大臣賞」 受賞団体の取り組み概要について

○大賞・環境大臣賞 法政大学 川久保俊研究室（行政・民間団体部門）

自治体のSDGsに関する取組/成功事例を検索、発信、共有するローカルSDGsプラットフォームの開発

【取り組み概要】

法政大学 川久保俊研究室では、SDGsの達成に向けて取り組みを進める全国の自治体関係者を支援することを目的に「ローカルSDGsプラットフォーム」を開発し、その運用を行っております。

本プラットフォームは、SDGsに関する約200もの指標毎に全国約1,800の自治体の情報をデータベース化して公開しています。また、自治体が策定、公開している計画や戦略などを検索できるほか、SDGs達成に向けた取り組みを自治体が自主的に発信できる機能も実装しています。これらの開発は、すべて研究室の学生たちが行い、ユーザーからの要望に応じて継続的に機能を拡張させています。SDGs達成に向けた取り組みやESG関連のアクションを直接的・間接的に支援するための情報交換・コミュニケーションの場を提供し、グリーン市場の拡大を目指しています。

【評価ポイント】

SDGsを推進する自治体担当者をサポートするためのプラットフォーム・データベースとして大変有益である。また、学生が主体的に運用し、継続だけでなく自ら新たな機能を追加していくことにより、持続可能な社会構築を考える人材の育成に貢献している。今後、プラットフォームで得た情報が起点となって新しい取り組みに発展した好事例を期待したい。

○大賞・経済産業大臣賞 昭和電工株式会社（プラスチック資源循環特別部門）

使用済みプラスチックのケミカルリサイクルによる低炭素な化学品原料化・資源循環事業

【取り組み概要】

昭和電工株式会社川崎事業所では、家庭などから排出されたプラスチックを皆様の日常生活へ循環させるリサイクルの輪を創出することを目的に、世界で唯一のプラントで使用済みプラスチックから低炭素な水素や炭酸ガスにリサイクルする資源循環システム事業「川崎プラスチックケミカルリサイクル（KPR）」を展開しています。

KPRでは、使用済みプラスチックをガス化して、水素と炭酸の合成ガスを製造し、水素はアンモニア合成の原料に、炭酸ガスは炭酸製品やドライアイスの原料に使用しており、廃棄物の削減や低炭素な産業の実現、資源利用効率の向上など、様々な社会問題解決に貢献する循環システムとして稼働しています。

【評価ポイント】

国内で発生する「使用済みプラスチック」を受け入れ、水素やアンモニア、炭酸、ドライアイス等の材料としてケミカルリサイクルする本事業は、使用済みプラスチックの処理問題だけでなく原材料調達の安定性、地球温暖化対策にも有益な取り組みであると評価する。また、いち早くプラスチック資源の循環利用に取り組むことで、循環型社会の構築に貢献する優れた事例である。

○大賞・農林水産大臣賞 株式会社クラダシ（中小企業部門）

日本初の社会貢献型フードシェアリングプラットフォーム「KURADASHI」～もったいないを価値へ～

【取り組み概要】

株式会社クラダシは、日本国内で大量のフードロスが発生している状況を踏まえ、廃棄食品を買い取り、社会貢献型フードシェアリングプラットフォーム「KURADASHI」上で販売することにより、フードロスの削減に取り組んでいます。また、売上金の一部を環境保護支援団体などへ寄付するという付加価値を付けることで、利用者が持続可能な社会の実現に貢献できる仕組みです。

「KURADASHI」では、食品の賞味期限、パッケージの汚れやキズ、自然災害による被害などの要因で、消費可能でありながら通常の流通ルートでの販売が困難な商品と、これらを利用する消費者のマッチングを行っています。また、個人単位だけではなく、「オフィス de クラダシ」を展開し、企業単位でのフードロス削減も行っています。

【評価ポイント】

商品を販売する企業、購入する消費者双方にとって経済的の魅力があり、かつ、社会課題を解決する仕組みを兼ね備えており、高く評価できる。クラダシが商材を「調達」し、それらの商材を消費者が「購入」することにより、フードロスの削減につながる取り組みで、「購入を通じた」課題解決のビジネスモデルとして秀逸である。

「大賞」 受賞団体の取り組み概要について

○大賞

株式会社東急ホテルズ 川崎キングスカイフロント東急 REI ホテル (大企業部門) 再生可能エネルギー100%！日本初の「CO2 フリー電力ホテル」

【取り組み概要】

株式会社東急ホテルズ 川崎キングスカイフロント東急 REI ホテルは、使用済みプラスチック由来の水素を活用する“世界初の水素ホテル”として、事業活動に使用する電力の 3 割を水素エネルギーで賄っています。残りの 7 割はバイオガスなどの再生可能エネルギーを活用し、日本初の「CO2 フリー電力ホテル」でもあります。

また、食品廃棄物をエネルギーに変える「バイオフードリサイクル」を導入し、食品廃棄物リサイクル率 100%を実現しました。廃棄物のメタン発酵により発生したバイオガスを利用して発電する取り組みに参画し、その電気を購入することで資源循環と温暖化抑制に貢献しています。

【評価ポイント】

サステナブルなホテルづくりを目指し、ホテル内で発生する廃棄物を有効活用し、使用済みプラスチックから水素を製造、食品廃棄物からバイオガスを生成し、CO2 フリー電力に転換しており、高く評価できる。低炭素のエネルギー循環を可視化する取り組みで、グリーン市場の拡大に貢献している。

○大賞 小川珈琲株式会社 (中小企業部門)

一杯のコーヒーからできること【京都小川珈琲 SDGs 宣言】

【取り組み概要】

小川珈琲株式会社は、「一杯のコーヒーからできること」をコンセプトに、SDGs の目標達成と持続可能な社会の形成に向け、京都から全国・世界へと活動を広げています。

同社ではいち早く国際フェアトレード認証コーヒーを商品化し、現地生産者との交流やセミナーの開催、「フェアトレード月間」の設定などを通じて普及に努めています。また、有機 JAS 認証コーヒー、環境と動植物保護に配慮したバードフレンドリー®認証コーヒー、オランウータンの保全活動に寄与するコーヒーなどの取扱いにも力を入れています。

【評価ポイント】

日本国内での初期の頃からフェアトレードや有機 JAS 認証コーヒーなど、生産段階での環境面・社会面に配慮したコーヒー豆の調達に取り組み、それらの商品化、普及啓発に積極的に取り組んでいる。また、消費者と世界（生産者）をつなぐこの事業は、SDGs を経営に実装した取り組みとして高く評価できる。

○大賞 横浜市（行政・民間団体部門）

横浜市グリーン購入推進 ～eラーニング研修等を通じた人材育成について～

【取り組み概要】

横浜市では、「横浜市グリーン購入の推進に関する基本方針」および「横浜市グリーン購入の推進を図るための調達方針」に基づき、グリーン購入調達率 100%の目標を掲げ、組織的なグリーン購入を推進しています。eラーニング研修を通じて担当職員のグリーン購入の理解促進に努める他、環境配慮印刷企業の視察により知見を得、庁内職員向けの「グリーン購入通信」で情報共有と人材育成につなげています。

その結果、4年に1度実施している調達実績の全数調査において、99.64%（平成30年度）と非常に高い結果を得ました。今後もこれらの意識醸成と教育を推進し、取り組みの推進を図っていきます。

【評価ポイント】

職員数の多い組織であっても、eラーニング研修を通じて理解を広げ、調達実績に反映している工夫が高く評価できる。また、グリーン購入通信の発行、見学会等で継続して職員の意識向上を図っていることは、自治体グリーン購入推進のモデルとして他自治体も取り入れることができる好事例である。

○大賞 日本コカ・コーラ株式会社（プラスチック資源循環特別部門）

World Without Waste（廃棄物ゼロ社会の実現を目指す）100%リサイクルペット素材で作られた「い・ろ・は・す」製品

【取り組み概要】

日本コカ・コーラ株式会社は、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用の促進、および容器由来の廃棄物の問題解決に向けた「容器の2030年ビジョン」の策定、回収したボトルから新たなボトルを作る「ボトルtoボトル」の推進など、「設計」、「回収」、「パートナー」の3つを柱に取り組んでいます。

「い・ろ・は・す」では100%リサイクルペットボトル、ラベルレスの取り組みが進んでおり、業界に先駆けてサステナブル・パッケージ「持続性可能な容器」を導入しています。今後は、政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通し、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組めます。

【評価ポイント】

「ボトルtoボトル」による100%リサイクルペットボトル、及び、ラベルレスの取り組みは画期的であり、業界に先駆けたプラスチック資源循環利用の活動は総合的に評価できる。また、自らリサイクル素材を積極的に採用することで水平リサイクルの社会実装に貢献している。

「優秀賞」 受賞団体の取り組み概要について

○優秀賞 大東建託株式会社（大企業部門）

脱炭素経営の実現に向けた大東建託の再生可能エネルギー導入・普及・拡大への取り組み

【取り組み概要】

大東建託株式会社は、「脱炭素社会の“住まい”と“暮らし”」を提供する企業への成長を目指し、日本の建設業として初めて「SBT1.5℃水準」の温室効果ガス削減目標を掲げ、RE100 への参画など、グループ全体で再生可能エネルギーの導入、普及、拡大に取り組んでいます。

木造集合住宅メーカーという本業とのストーリー性を重視し、木造住宅のライフサイクルで生じる木質バイオマス燃料由来の再生可能エネルギーを積極的に導入しており、再エネ普及・拡大に貢献する購入方針のほか、自社建設現場での再エネ導入にも着手。今後、日本の建設現場の脱炭素化に取り組みを拡大させていきます。

【評価ポイント】

建設業の中でも SBT 目標や RE100 加盟等、積極的に取り組んでいること、本業と関連する木質バイオマス発電を重視する考え方や、「追加性」「ストーリー性」「社会性」の観点を取り入れた再エネ購入に関する考え方、建設現場の再エネ電力プランの開発協力等、意思を持った取り組み姿勢は評価できる。

○優秀賞 デジタルグリッド株式会社（大企業部門）

「誰でも」・「自由」に再エネ電力取引ができる「デジタルグリッドプラットフォーム」

【取り組み概要】

デジタルグリッド株式会社は、国内初の民間電力取引所として、「誰でも」再生可能エネルギーの売り手・買い手となり、需要家の「自由」な電力の選択・買電を可能とする、P2P の「デジタルグリッドプラットフォーム(DGP)」を構築し、再生可能エネルギーの市場拡大を目指しています。

DGP では、需要家が小売電気事業の資格を必要とせずに再エネ電源を含む電力を直接調達し、電力事業を運営するほか、電源を選択することを可能にしました。発電家が直接需要家に電力を販売する方式を提供することで、FIT 制度終了後も再エネ普及可能な世の中の実現に貢献します。

【評価ポイント】

DGP は、再生可能エネルギーの需要と供給をつなぎ、手軽に売買が可能な電力取引システムを構築し、需要家のニーズに合わせた再エネ購入を可能にしたことが評価できる。特に電源構成を選択できる仕組みは、脱炭素をめざすうえで優良事例であり、今後のさらなる広がり期待したい。

○優秀賞 有限会社生活アートクラブ（中小企業部門）

環境配慮型印刷用紙「木になる紙」と「竹紙」の持続的活用と発展的展開で、SDGs の一翼を担う！

【取り組み概要】

有限会社生活アートクラブは、環境に配慮した持続可能な商品の卸業を通じ、カタログチラシに環境配慮型の印刷用紙「木になる紙」と「竹紙」を採用し、2012年以降、継続して使用しています。印刷用紙は、竹原料を15%配合したオリジナルの竹紙「につぼんの竹紙 15」を製品化し、生協などへ提案活動を行っています。

学習会では、チラシ紙面を通じて環境情報を発信するとともに、全国の生協などとの協働により、国内の森林事情、放置竹林問題、プラスチック問題などをテーマに、これまで120カ所で学習会を開催し、グリーンコンシューマーの育成に熱意を持って取り組んでいます。

【評価ポイント】

竹紙の利用という独自性とともに、環境配慮型印刷用紙の開発と普及を進めるための継続的な取り組み、他社への利用拡大の提案が販売実績に表れており、評価できる。また、生協などの他団体との連携を通じて、数多くの環境教育、情報提供を実施されており、地に足の着いた活動である。

○優秀賞 町田市（行政・民間団体部門）

誰一人取り残さないグリーン購入に向けて～町田市役所の環境マネジメント～

【取り組み概要】

町田市は、市独自の環境マネジメントシステムの運用を通じて、①活動しやすい環境づくり、②活動の結果が見え、改善につながる仕組み、③職員一人ひとりの意識改革、に重点を置き取り組んでいます。

財務会計システムの更改に合わせて環境物品の購入を職員に促す仕組みとして、グリーン購入に係る入力を必須項目としたほか、職員研修の充実と合わせ、各職場に置く環境推進員のリーダーシップにより全職員にグリーン購入の意識づけ、動機づけを行っています。また、最新情報の提供や職員の疑問に答えるための庁内報を電子掲示板へ定期掲載し、更なる啓発に努めています。

【評価ポイント】

グリーン購入の取り組みを推進するために必要な要素（環境づくり、結果の見える化、意識改革）を的確に捉え、PDCAで実践している点は他の自治体の見本となる。また、研修やシステム化を通じて全職員への意識付けや作業負荷軽減などの成果を出している点も評価できる。

○優秀賞 宇陀化成工業株式会社（プラスチック資源循環特別部門）

リサイクル原料 100%に拘り、地球環境に配慮し社会に貢献する宇陀化成工業のものづくりが誇りです。

【取り組み概要】

宇陀化成工業株式会社は、製品の製造工程で発生する廃プラスチックなどのリサイクル原料を 100%使用したポリフィルムを生産しており、ゴミ袋を初め各種袋類、土木建築用養生シート類など広範な製品を提供しています。リサイクル原料 100%を用いた製品づくりは創業以来拘り続けてきた要素です。

生産にあたっては、原料となる再生プラスチックの安定調達とさまざまな特徴を持った原料をブレンドする独自の技術とインフレーション成形により、多様なニーズに対応しています。リサイクル原料による生産量は着実に伸びており、資源循環と CO2 排出削減に貢献しています。

【評価ポイント】

創業以来、一貫してリサイクル原料の調達とリサイクル原料 100%の製品づくりを推進している。ポリエチレンフィルムを製造するための中間処理業者へ働きかけや、安定供給を実現している点も評価できる。未使用のまま処分されるプラスチックの削減と資源循環に有効な取り組みといえる。

○優秀賞 FYS 株式会社（プラスチック資源循環特別部門）

「広域認定制度」に則り、大手リテラーと取り組み流通ハンガーを再利用することにより廃プラ削減と循環型社会の一端を担う。APRES（アプレス）活動の普及

【取り組み概要】

FYS 株式会社は、廃プラスチックの削減と資源循環への貢献を目指し、産業廃棄物処理の広域認定を受け、流通事業者との連携により流通用プラスチックハンガーの回収・リユースを進める APRES（Activity Plastic Recycling Ecology Success）活動を展開しています。

大手流通業者やアパレル関係の小売事業者の協力を得ながら取り組みを推進しており、2020 年度のハンガー回収量は 116.17t、リユース率 13.7%、リサイクル率 3.1%となっています。今後も活動の認知度を高め連携事業者を増やすとともに、対象地域の拡大を図っていく計画です。

【評価ポイント】

「使い捨てが当たり前」を見直し、プラスチックハンガーの製造事業者の立場から流通ハンガーのリユース・リサイクルの道筋をつくり、アパレル業界に実践を働きかけて成果を残している。固定観念を覆すとともにプラスチック資源循環を促進するこの取り組みは他地域への汎用性も高く、評価できる。

グリーン購入推進自治体特別賞 概要

■グリーン購入推進自治体特別賞（GPN 選定）

第18回（2017年度）のグリーン購入大賞より、グリーン購入に関して、優れた取り組みを行っている地方公共団体を表彰するために「グリーン購入推進自治体特別賞」を設けました。

「グリーン購入推進自治体特別賞」は、環境省が運営する「グリーン購入取組事例データベース」の掲載情報（調達方針の有無、組織的に取り組む分野数、調達実績）を基に GPN が独自に評価し、全国 1,788 団体の中から最上位の団体（満点を獲得した団体、かつ過去に受賞歴のない団体）を表彰するものになります。

■評価項目及び評価基準（45点満点）

- ・「調達方針」が単独で策定されている場合は3点
「各種計画等」で位置付けられている場合は1点とする。
- ・「組織的实施状況（分野別）」について、「○」のついた分野数×1点（満点は21点）
- ・「グリーン購入の割合が8割以上の分野数」と「判断基準はあるが、調達機会がなかった分野数」の合計×1点（満点21点）

■受賞団体（2団体）



◆参考情報

- ・環境省「グリーン購入取組事例データベース」

https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/jirei_db/map.html

◆これまでの受賞団体

第18回 猿払村（北海道）、仙台市（宮城県）、東根市（山形県）、多治見市（岐阜県）、長崎市（長崎県）
 第19回 横浜市（神奈川県）、妙高市（新潟県）、福井県、大阪府、長崎県、熊本市（熊本県）
 第20回 岡山県、熊本県